

公開までのあゆみ

平成12年度

- ・ 補正予算で電子図書館整備の予算措置を受ける

平成13年度

- ・ Hitotsubashi Digital Archives (HDA) のサービス開始

平成18年7月

- ・ 国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」に採択

平成18年9月

- ・ 課長・事務長事務連絡会、常任役員会、全学情報化グランドデザイン策定WGにて機関リポジトリについて説明を行い、全学への周知を図る
- ・ 図書館報による広報活動開始

平成18年10月

- ・ 機関リポジトリを全学的事業として推進するため、経営企画委員会企画部会のもとに機関リポジトリWGを設置することを決定
- ・ 第1回機関リポジトリWGの開催

平成18年11月

- ・ 第2回機関リポジトリWGの開催

平成18年12月

- ・ 第3回機関リポジトリWGの開催
- ・ リポジトリシステムの決定

平成19年1月

- ・ 名称を「HERMES-IR」に決定
- ・ 管理運営規則の制定
- ・ 運営会議要項の制定
- ・ 教授会での説明を実施
- ・ 機関リポジトリ準備サイトの公開
- ・ サーバ設置

平成19年2月

- ・ 第4回機関リポジトリWGの開催
- ・ データベースの作り込み
- ・ HDAからデータの移行作業開始

平成19年3月

- ・ HDAからデータの移行作業終了
- ・ 18年度博士論文提出者へ許諾依頼

平成19年4月

- ・ ロゴ決定 (職員の手作りによる)
- ・ 機関リポジトリ運営会議の発足
- ・ 第1回機関リポジトリ運営会議の開催

平成19年5月

HERMES-IR公開

Hitotsubashi Digital Archives (HDA) とは？

一橋大学では、機関リポジトリ構築に先行して、平成12年度から、学内の研究成果から行政文書まで多種多様なコンテンツを収集し、積極的に発信することを理念とする「一橋デジタルアーカイブス (HDA)」を構築してきました。

平成15年7月には「一橋デジタルアーカイブスにおける学内紀要類の掲載及び発信に関する実施要項」を制定しました。これにより、既刊の紀要類に関しては学内執筆者に対して公開許諾の依頼を行い、新規に刊行される紀要類については網羅的な公開を目指し、継続的な収集のための制度化を進めてきました。

もうひとつのHERMES-IR HERMES-IR : Special Collections

HDAには、紀要論文に留まらず、一橋大学所蔵資料の電子化コレクションのデータを掲載していました。しかし、HERMES-IRに移行するにあたって、検索結果の表示方法やメタデータの構成の相違等の理由により、紀要等を掲載するデータベースと同じサーバ・ソフトを使いながらも、別のデータベースを構築することとなりました。

その結果、HERMES-IRは、学位論文や紀要論文、雑誌掲載論文を収録する、いわゆる機関リポジトリとしての役割を持った「Research & Education Resources」と、附属図書館や社会科学古典資料センター等が所蔵するコレクションを画像化して収録する「Special Collections」のふたつで構成されています。

Research &
Education
Resources

Special
Collections

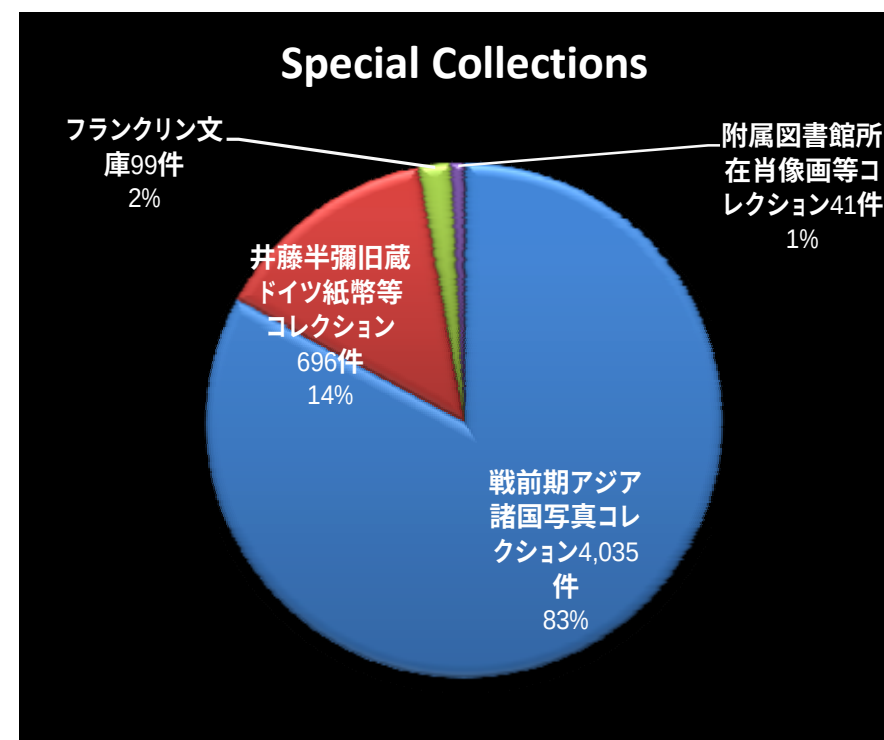
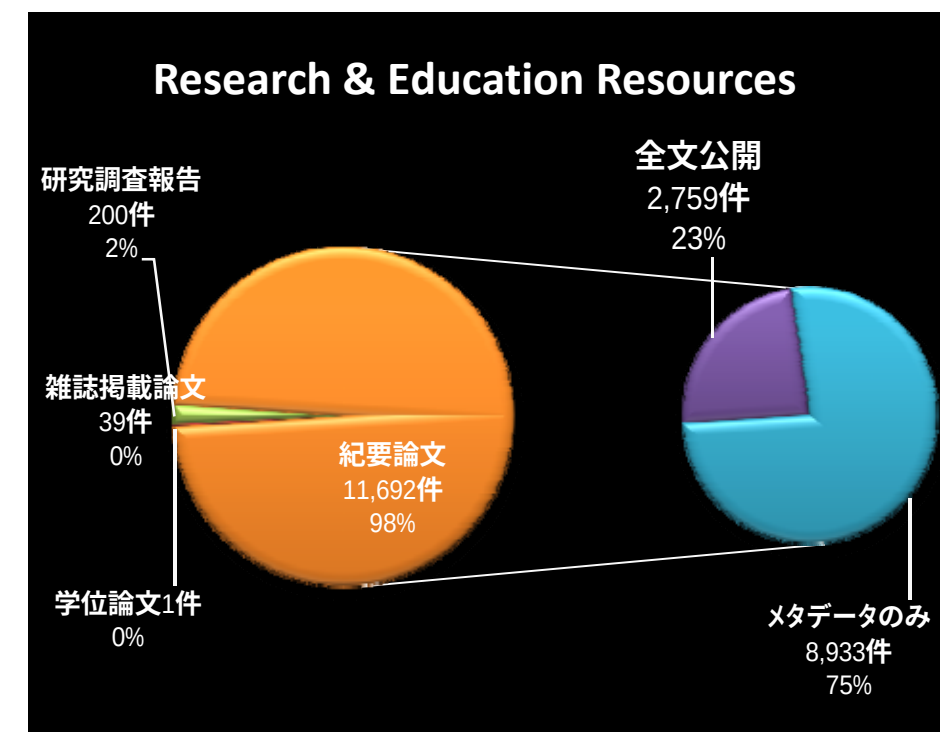
収録コンテンツの現状

(2007.6.19現在)

HERMES-IRは、先行するHDAの後継システムとして、その初期コンテンツはHDAに蓄積されたデータを引き継ぐものとなりました。HDAに蓄積された紀要論文を移行するにあたっては、従前のHDAの許諾をもって機関リポジトリへの許諾と見做すことを機関リポジトリWGにて確認し、その旨を広報誌『BELL』にて学内へ周知しました。

現在「Research & Education Resources」には、11,932件のデータが掲載されていますが、そのうち98%は紀要論文となっています。また、紀要論文の7割以上がメタデータのみで公開となっていますが、これはHDAの方針として、HDAによる紀要の目次情報提供を目指したためです。

今後は、メタデータのみを公開しているものについて、全文公開の許諾を取ることが課題となります。



現在「Special Collections」では、フランクリン文庫、井藤半彌旧蔵ドイツ紙幣等コレクション、戦前期アジア諸国写真コレクション、附属図書館所在肖像画等コレクションを公開しています。

今後は、後援会新規事業として電子化する本学関係非図書資料の一部も公開していく予定です。

広報活動

- 学内諸会議にて、全学の事業としての「機関リポジトリ」の周知徹底を図った。
- 教授会にて、機関リポジトリWGメンバー（教員）と事務職員による説明を行った。
- 機関リポジトリ準備サイトを公開し、機関リポジトリに関する基本情報、FAQ等を掲載した。
- 一般用と博士論文用のチラシ（A4両面印刷）を自家生産し、全教員および博士論文提出者に配布した。
- 一橋大学の卒業生で構成される同窓会・（財）如水会の『如水会々報』に寄稿した。
 - ・『如水会々報』 no.925 (2007.6.1)
「平成19年5月1日、本学の機関リポジトリ (HERMES-IR:ヘルメス-アイ・アール) を公開しました」
- 図書館報『鐘』および広報誌『BELL』にて、進捗状況の報告および、論文提供の呼びかけを行った。
 - ・『鐘』 no.50(2006. 9) 「一橋デジタルアーカイブス(HDA)から機関リポジトリに転換します」
 - ・『BELL』 no.1(2006.10.30) 「研究成果を発信するために」
 - ・『BELL』 no.2(2006.12. 8) 「情報は発信するところに集まる」
 - ・『BELL』 no.4(2007. 1.22) 「HERMES-IR(一橋大学機関リポジトリ)に第1号の登録申請」
 - ・『BELL』 no.5(2007. 2.19) 「HERMES-IR(機関リポジトリ) に対する質問にお答えします」
 - ・『BELL』 no.6(2007. 3. 2) 「博士論文(全文)をHERMES-IR(機関リポジトリ)から世界へ発信しよう」
 - ・『BELL』 no.8(2007. 3.23) 「図書館職員の業務・自己研鑽を通じての成果をHERMES-IRへ」
「HDA (一橋デジタルアーカイブス) に登録済みのコンテンツの
HERMES-IRへの移行に伴う利用許諾について」
「研究助成成果のオープンアクセスを求める世界の動き」
 - ・『BELL』 no.10(2007. 4. 9) 「機関リポジトリに対するご支援」
「機関リポジトリ運営会議が発足」
 - ・『BELL』 no.11(2007. 4.16) 「HERMES-IR (一橋大学機関リポジトリ) 5月1日いよいよ公開」
 - ・『BELL』 no.13(2007. 5.10) 「名誉教授の皆様へ: HERMES-IR (一橋大学機関リポジトリ) について」
 - ・『BELL』 no.15(2007. 5.21) 「HERMES-IR (一橋大学機関リポジトリ) を5月1日に公開しました」
「もうひとつのHERMES-IR HERMES-IR : Special Collections」

今後の展望と課題

- 紀要類について
 - 現在メタデータのみを公開しているものを含め、本学の紀要類の全文公開の許諾を得る。
 - 【進捗状況Ⅰ】
5月に開催したホームカミングデーにて、参加した名誉教授へ公開許諾を依頼。21名中15名から回答を得ることができた。
欠席した名誉教授96名へも、公開許諾の依頼を行い回答待ちである。
 - 【進捗状況Ⅱ】
近年創刊した各研究科の紀要類について、投稿規定にweb公開について盛り込んだ上で、許諾書を提出してもらった（一部の紀要を除く）。PDFデータの提供が今後の課題となっている。
- 博士論文について
 - 博士論文提出時に、機関リポジトリへの搭載に関する許諾及び論文データの提供を可能とするよう制度的な整備を行う。
 - 過去数年分の博士号取得者に対して公開許諾の依頼を行う。
 - 【進捗状況】
各研究科に論文提供の制度化について打診を行った。制度化に関する文案を作成中。
- 許諾書・許諾要件の英文化
- 研究科、研究所、COEプロジェクトのワーキングペーパー、報告書等の収集
- 後援会予算にて計画している本学関係非図書資料の整理・修復保存・電子化事業との連携